

『ひとりあそびの教科書』 <2023年9月号>

宇野常寛 // 著(河出書房新社 2023.04)

場所:ティーンズ【Y 159/ウノ】

「ひとりであそび」と言われるとどんなことを想像しますか？友達がいないのかな？さみしいひとなのかな？と想像してしまいがちですが、この本はそんなイメージを変えてくれます。近所を散歩してみたり、少し遠い場所まで旅に出てみたり、ひとりだからこそ見える景色がある。モノを集めたりゲームをしたり、外出しなくても楽しめることがある。だれかとあそぶのも楽しい！でも、ひとりの時間も大切にしたい。そんな人におすすめの本です。

『翼をもたない私たちは、それでも空を飛びたかった。』

<2023年11月号>

山下君子 // [ほか]著(Gakken 2023.08)

場所:ティーンズ【Y 913/ガツ】

「暗い、重い、切ない…。でも、読んでほしい。」がキャッチコピーのこの本。三人の作家によって紡がれる短編小説は、親の離婚、ヤングケアラー、不登校など、とにかくこの宣伝通りの要素が盛り込まれていて、読むと苦しい気持ちになるかもしれません。それでも、中高生にも大人にも読んでほしい、現代の子どもたちが抱える、決して目をそらしてはいけない問題を映した作品となっています。

『TRUE Colors』 <2023年7月号>

小林深雪 // [ほか]著(講談社 2023.05)

場所:ティーンズ【Y 913/コウ】

中学生になると、ジェンダー(性)について意識をすることも多くなり、さまざまな出来事に直面することも増えるのではないのでしょうか。

そんな中学生の視点で紡がれるのが、このジェンダーフリーアンソロジーです。ジェンダーの壁に、主人公や周りの人々がどう向き合っていくのかを知ることで、あなたのジェンダーへの意識も、何か変化のきっかけを得られるかもしれません。

《発行》

関市立図書館 指定管理者 学校法人岐阜済美学院

TEL:0575-24-2529/FAX:0575-23-7780

E-mail:lib@city.seki.gifu.jp

司書のおすすめ 《2023年版:こどもの本》

SEKI CITY LIBRARY

BOOK REVIEW

※2023年4月号～2024年3月号の図書館だよりで紹介した本



『あおをはっけんしたちいさなヤン』 <2023年12月号>

ジャン・リュック アングルベール // さく(イマジネーション・プラス 2023.09)

場所:絵本【E/アオ】

ヤンは、有名な画家のアトリエで働く見習いの男の子。将来絵描きになりたいくて、仕事のあとも先生の絵の描き方をまねたりして練習していました。ある日、お客さんからドレスを「最も美しい青色」で描いてほしいと注文されます。当時、青色はとても貴重で簡単には手に入らなかったで、画家の先生は頭を抱えてしまいます。ヤンが見つけた方法とは…。「プルシャンブルー」という色が発見された史実を元にしたお話です。

『うみ』 <2023年6月号>

ピレット ラウド // 作(岩波書店 2023.01)

場所:絵本【E/ウミ】

魚たちをととても愛しているうみは、せいっぱい魚たちの世話をしました。寝る前には物語を読んであげていました。ところが魚たちがあんまりふざけてばかりで、うみはこらえきれなくなっていなくなってしまいます。魚たちはおふざけに夢中でしたが、寝る時間になるといつもの物語がないので眠れません。さて困った魚たちは…？
子育てに疲れた心に寄り添うおとぎばなしでもあります。

『海に光るつぼ』 <2023年8月号>

久留島武彦 // 作(子どもの未来社 2023.05)

場所:絵本【E/ウミ】

戦争で親をなくしたケンちゃんは、くつみがきをして暮らしています。
おばさんの家をたずねたとき、海でふしぎなおじいさんに出会い一緒に海の底へ。見せてもらったきれいな玉がほしくなったケンちゃん...無事に海から帰れるのでしょうか。

『うみのたからもの』 <2023年10月号>

たかおゆうこ // 作(講談社 2023.07)

場所:絵本【E/ウミ】

「うみべに いったら かいがらを さがそう」
「かいがらは つたえる うみの ものがたりを」
海岸の貝殻から広がる美しい想像の情景が、精緻な筆致で描かれます。何回も見返したくなる絵本。お子さんにも、大人の方にもおすすめできます。

『ぼくにはひみつがあります』 <2023年5月号>

羽仁進 // さく(主婦の友社 2023.02)

場所:絵本【E/ボク】

ぼくのひみつはアパートで、こっそりムササビの親子を飼っていることです。でも、ぼくのひみつは幼稚園の先生に知られてしまいます。子どもたちは飛べるようになると、危険がいっぱい。そこでムササビの親子を先生たちと森へ連れていきます。月明りにムササビたちが飛び姿がとても鮮やかです。

『じぶんでできた！お弁当の本』 <2023年4月号>

杉崎聡美 // 著(ほるぷ出版 2023.01)

場所:児童書【K 596/スギ】

春は何か新しいことを始めたい季節です。普段料理をしない皆さん！春から、自分でお弁当を作ってみませんか？
この本では、子どもでもできるお弁当がいくつか紹介されています。お弁当作りは手間がかかる、材料を買うのも大変、そんなお弁当作りの不安も吹っ飛ばす内容です。はじめは冷凍食品をチンしてご飯とつめればいい、スーパーのお惣菜もうまくつかって気楽に作ればいい、などお弁当作り初心者の背中を押してくれます。
学校、職場、春の行楽、マイお弁当を食べる楽しみをぜひ味わってください。

『おいしく！きれいに！魚の食べかたずかん』 <2024年3月号>

小倉朋子 // 監修(汐文社 2023.11)

場所:児童書【K 596/チヨ】

魚の食べかたがきれいな大人になれたらステキだと思いませんか？
このシリーズでは、魚のじょうずな食べかたをわかりやすいイラスト付きで教えてくれます。サンマのしおやき、アジのひもの、サバのみそに等々...食べかたをマスターすれば、人前で魚を食べるのが楽しくなってくるかも♪

『るるぶマンガとクイズで楽しく学ぶ！ことば1000』

<2024年1月号>

白坂洋一 // 監修(JTBパブリッシング 2023.08)

場所:児童書【K 814/ジエ】

ことわざや四字熟語などを覚えるのにおすすめ！どんな場面であつかうのかイラストや漫画でわかりやすく学べます。また、「恥ずかしい」「難しい」といった言葉から「エモい」「ラッキー」などの言葉まで、日常のふとした瞬間に使う言葉の言いかえも知ることができます。「メタバース」「インバウンド」などのニュースでよく聞く言葉の意味も載っているため、大人にもおすすめの1冊です。

『キャラ絵で学ぶ！源氏物語図鑑』 <2024年2月号>

千羽ひとみ // 文(すばる舎 2023.11)

場所:児童書【KC 913/セン】

今年のNHK大河ドラマの主人公“紫式部”の代表作「源氏物語」。作者と作品名は知っているけど、読んだことがない人も多いのでは？
平安という時代の中で、イケメンで恋多き光源氏と彼をとりまく女性、ライバル、友人、親や子からはたまたま権力争いをする人々まで、様々な思いが交錯していく大長編物語です。しかし、それゆえに登場人物が多く、関係性も複雑です。まずはこちらの本で“予習”してみたいかがでしょうか？平安時代の文化や暮らし、ファッションについても学べる楽しい1冊です。

